

茨城県畜産センター家畜飼養管理に係る外部有識者による調査について

○調査実施の経緯

これまでセンターでは、JGAP 基準書に基づく農場管理手順書を各所で策定し、自己点検を実施することで、よりよい飼養環境づくりを目指してきたところです。

今般、国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェア（以下、AW）の国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について（令和5年7月26日付け5畜産第1063号畜産局長通知）が通知され、家畜ごとの「飼養管理に関する技術的な指針」が新たに示されました。

このことから、農場手順書のうちAWの項目については、これまでの自己点検に加え、外部有識者による実践状況の確認をセンター本所において試行的に実施しました。

○調査の実施

・日 時：令和5年8月3日（木）10:00～12:30

・外部有識者：

AW及び動物行動学等について専門的な知識を有する2名

茨城大学農学部 安江 健 教授、茨城大学農学部 小針大助 准教授

・調査方法：

(1) 家畜の飼養管理に関すること（乳用牛、肉用牛、採卵鶏）

①管理方法、②栄養、③牛舎、④牛舎の環境、⑤AWの状態確認等

(2) 家畜の快適性に関すること（乳用牛、肉用牛、採卵鶏）

①餌・水、②恐怖、③物理環境、④苦痛・障害・疾病、⑤行動

※ (1) 及び (2) について国が定める「畜種別チェックシート」により確認いただいた。

・調査結果：

センターの飼養牛について対人反応は良好、牛舎全体が静穏に維持されていたことから日常管理状況の良好性が示唆されたものの、施設・管理のいくつかの点で改善項目を認めため一部不適との評価をいただいた。

・調査結果への対応：

改善を要する項目については、優先順位をつけ改善スケジュールを作成し、対応していく。

○外部有識者による調査に関する方向（案）

今年度は、センター本所のみで試行的に実施したが、よりよい飼養環境の整備に向けて外部有識者による助言は非常に参考になり有意義であることから、次年度以降は、畜産センター3所で外部有識者による調査を実施したい。